

唐津市観光施設事業経営戦略

(唐津市玄海海中展望塔)

概要版

1. 経営戦略策定の目的

玄海海中展望塔は、入場者の減少により基金を取り崩しながらの経営状況のため、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組むために、中長期的な視点に立った経営の基本計画となる「唐津市観光施設事業経営戦略」を策定するもの。

2. 計画期間

令和5年度(2023年度)から令和14年度(2033年度)までの10か年とする。

3. 事業概要

(1) 事業形態

施設名：唐津市玄海海中展望塔 事業開始年度：昭和53年度

事業内容：玄海国定公園の特別地域内に指定された玄海海中公園の利用者に対し、海中の自然景観による自然科学の知識の向上を図り、併せて観光事業の発展に寄与する。

(2) 現在の経営状況

- ・玄海海中展望塔の経営状況について、平成28年度までは料金収入のみで運営してきた。(最高入場者数 H6：17.1万人 H30：3.5万人、H31：4.0万人、R2：2.5万人、R3：2.6万人)
- ・昭和49年に建設された当施設は、海水の影響をまともに受けるため塩害と経年劣化による老朽化に伴って維持・補修費が増加している。
- ・入場者の減少により平成29年度からは基金を取り崩しながら修繕や大規模改修により施設の維持を行ってきた。

4. 将来の事業環境

(1) 観光客数の見通し

・この周辺地域の観光施策と一体としたPRを強化し、減少傾向にある入場者数を、令和5年度に内装改修(デジタルコンテンツの導入を含む)し、令和6年度に10万人を見込み、その後は、デジタルコンテンツの更新を行い、入場者の大幅な減少に歯止めをかけ、10年後においても、最大2割減の8万人を見込んでいる。

(2) 料金収入の見通し

内装改修などを実施し顧客満足度の向上を図り、入場者数の上昇と料金改定を見込むことで増収し、悪化傾向の経営状態の改善が可能となる。

5. 経営の基本方針

- ・日本海側唯一の展望塔で、全国的にも数少ない貴重な海洋建築物という特性を活かした集客機能を発揮し、事業者及び地域住民に必要とされる公共観光施設を目指す。
- ・施設自体の魅力を向上させ集客力強化を図るとともに、既に観光地として認知度の高い呼子地区と連携し鎮西地区への周遊を促し、福岡県等の県外からの都市交流人口、滞在時間の延長をさらに増加させることで、地域産業の発展を促進する。

6. 投資・財政計画（収支計画）

財源である料金収入の減少原因の一つに、話題性が欠如し宣伝・PR分野が不十分であることが考えられるため、時代のニーズを絡めた内装改修を実施することで、話題性を喚起し収入増に向けた観光地戦略の展開が可能になり、将来的な収支の均衡へと繋げる。

① 投資について

昭和時代の照明や音響などの設備や内装をリニューアルすると同時に、デジタルコンテンツを追加した改修を行うことで施設の付加価値を創出する。

② 財源について

現在は、料金収入および基金繰入である。

今後の財源確保のため、令和6年度のリニューアルオープン時に料金改定を計画する。

③ その他の経費について

- ・維持管理費等について、一般管理委託料他を計上
- ・長寿命化に関わる改修・更新経費を当該年度ごとに計上

7. 経営戦略の事後検証・改定等に関する事項

本経営戦略は10年間の計画とするが、3～5年度ごとに進捗状況の確認を行う。また、料金改定時など必要なタイミングで経営戦略を見直すこととする。